

ブナの森から農業と農村を考える（吉川FS）

担当教員名 田中 勉

1 コースの概要

日 程	2014年8月17日～20日
場 所	新潟県上越市吉川区
参加人数	22人

2 コースの目的

このFSの目的は、農業と農村についてよく見て考えることです。日本の農業は衰退が指摘されて久しく、農村は過疎と高齢化そして後継者難に苦しんでいると言われています。それは本当だろうか？実際に自分の目で確かめてみよう。徹底的に見る・聞くことをめざします。

3 事前学習

現地では何を見るか、何を尋ねるかを明確にするための準備として①日本農業の現状、②吉川区の概要、③食料・農業・農村基本法、④中山間地域等直接支払制度、⑤農業法人による集落営農、などについて文献・資料を用いて学びました。また、グループワークで「質問したいこと・知りたいこと」の一覧表を作り、事前に現地関係者に送りました。

4 行程

1日目

昼食前に現地集合、「開講式・オリエンテーション」からスタート。この日は行政からのレクチャーがメイン。吉川区と農業の現況について区職員からの説明と市の農林水産部課長による「上越市の農業政策」に関する講義を受けました。雨模様だったためその後のブナ林散策は翌日に延期しました。

2日目

この日は快晴。マイクロバスで区内を山から日本海まで移動する「水の流れをたどる旅」でした。地元の人々に親しみをこめて「尾神さん」と呼ばれる尾神岳のブナの森を抜けて吉川の流れに沿って下り、途中、田んぼへ水を引くための「堰」や「用水路」を見学、水利用と集落形成の関係について学びました。

午後は、「溜池」と、その水を利用するための施設である「ファームポンド」や「揚水機場」を見学、参加者の要望に応じて日本海の浜辺まで足を伸ばし青空と雄大な海を満喫しました、佐渡島を遠望できました。

帰途、ブナの森の湧水に立ち寄り、冷たくおいしい水でのどを潤した後、延期していた「田んぼの学校」へ行き、ブナ林でひとときを過ごしました。

夕食は地元関係者との交流会。お世話になる方々とバーベキューをしながら多くのことをお聞きする機会となりました。

3日目

この日のテーマは「集落営農と棚田」。まず、平地の大規模圃場で集落営農を行っている「竹直生産組合」を訪問、集落単位で農業を行う背景・現状・課題などについて説明を受けました。その後、米の貯蔵施設「カントリーエレベーター」を見学。

午後、区内産の材料で作られたおいしいジェラートを食べたり、お土産を買ったりできる施設「杜氏の郷」を訪問、楽しかった。

次に、小規模な集落営農組織「東田中生産組合」を訪ね、コメ販売の工夫などについてうかがい、農機具の見学も行いました。

その後、区内で最奥の山間、川谷地区へ移動。旧川谷小学校で3グループに分かれて農家の方を囲んで棚田の農業について話しをうかがいましたが、大幅に予定時間をオーバーするほど熱の入ったものとなりました。近くの畑でダイコンの種まき体験を楽しんだ後、夕暮れの棚田を見学。シカやイノシシの獣害が深刻になってきている現状についても、美しい自然を眺めながら説明を受けました。

4日目

山間地集落の現状と課題について、集落づくり推進員からの講義を受けた後、FSを通して疑問に思ったこと、尋ねてみたいことに関して「まとめの質問会」で理解を深め、昼食後に帰途につきました。

5 事後学習

秋学期開始時に事後学習会を開き、参加者各自が吉川で考えたことを発表し合い、まとめの学習を行いました。また、各自の課題に関するレポートを提出しました。



尾神岳（670m）から吉川を眺望する